

第 44 回 幹 事 会

平成 1 9 年 1 0 月 1 1 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第43回幹事会議事要旨

資料 5 審議事項

参考 1 第1部、第1部関連分野別委員会および分科会が作成する
対外報告案の取扱いについて

参考 2 今後の予定

日 時 平成19年10月11日(木) 16:30～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

提案1 分野別委員会における分科会の委員の決定

II 審議事項

1 シンポジウム等

提案2 「^{じんぶんがく}Humanitiesと基礎学の危機」(シンポジウム)

提案3 「宇宙利用シンポジウム(第24回)」

2 後援

提案4 国内会議

III その他

第 4 4 回 幹事会（10月11日）出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	浅 島 誠
副会長	土 居 範 久

第一部	部長	広 渡 清 吾
	副部長	佐 藤 学
	幹事	江 原 由美子
	幹事	小 林 良 彰

第二部	部長	唐 木 英 明
	副部長	北 島 政 樹
	幹事	鷺 谷 いづみ
	幹事	山 本 雅

第三部	副部長	小 林 敏 雄
	幹事	河 野 長
	幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

審 議 事 項

(シンポジウム等)

提案 2 「じんぶんがくHumanitiesと基礎学の危機」(シンポジウム) P. 1

提案 3 「宇宙利用シンポジウム (第 24 回)」 P. 2

(後援)

提案 4 国内会議の後援 P. 3

2	
幹事会	44

提 案

シンポジウム「^{じんぶんがく}Humanitiesと基礎学の危機」の開催

- 1 提 案 者 哲学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議哲学委員会、日本哲学系諸学会連合（J F P S）
2. 日 時 平成19年 12月 8日（土） 15：00 ～ 18：00
3. 会 場 専修大学神田校舎1号館15番教室（千代田区神田神保町3-8-1）

4. プログラム

開会あいさつ：野家啓一（東北大学副学長、日本学術会議会員）

I 講 演（ 15：10 ～ 16：30 ）

- 1) 鷺田清一（大阪大学総長、日本倫理学会会長、日本学術会議連携会員）
- 2) 神埼 繁（専修大学文学部教授、日本学術会議連携会員）
- 3) 鈴木博之（東京大学工学研究科教授）
- 4) 森 由利亜（早稲田大学文学学術院教授）

II 討論など（ 16：35 ～ 17：55 ）

司会：大庭 健（専修大学文学部教授、日本学術会議連携会員）

コメンテーター：金井淑子（横浜国立大学教授、日本学術会議連携会員）

斉藤 明（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

閉会あいさつ：丸井 浩（東京大学教授、日本学術会議会員）

開催趣旨

わが国のこの間の学術政策は、技術革新に直接に寄与するビッグ・サイエンスの偏重に大きく傾いてきたのみならず、人文・社会系の分野までも理工系のビッグ・サイエンスをモデルとして扱いつつ、人文系・理系を問わず基礎学を軽視してきた。このことは長い目で見たときには、学問全体の根幹を空洞化することにもつながりうる。

こうした中で、思想系の研究に携わってきた研究者は、技術革新が声高に叫ばれる今日における思想系の研究の意義と存在理由を、共同で改めて確認するとともに、右のような動向に対峙し、そこにはらまれている危険性について警告を発することが求められていよう。本シンポジウムは、こうした課題の遂行にむけて共同して第一歩を歩み出すことを目的として企画された。

3	
幹事会	4 4

提 案

「宇宙利用シンポジウム（第24回）」の開催

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議総合工学委員会
- 2 共 催 独立行政法人宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部
- 3 日 時 平成20年1月17日（木） 10：00～17：00
平成20年1月18日（金） 10：00～17：00
- 4 場 所 日本科学未来館 （江東区青海2－41）

5 議事次第

開催趣旨：

宇宙を利用する科学の諸分野での成果を研究者の間で広く討論する場として宇宙利用シンポジウムを開催します。科学者が宇宙に関連する研究計画を提案し、関連の研究者と議論することにより、宇宙への科学としての要望をまとめたり、研究の方針や戦略を策定するのに、宇宙利用シンポジウムは大きな役割をはたします。国際宇宙ステーションでの日本の実験運用利用が開始されようとしている中で、微小重力や圏外環境など宇宙を利用する科学とその周辺の現況について情報を共有し、本研究分野の学術的意義が確かめられ、将来展望がひろく研究者の間で議論されること期待します。

討論主題 「宇宙を利用する科学とその展望」

平成20年1月17日

プレナリーセッション

「宇宙利用シンポジウム（第24回）の開催にあたって」 久保田 弘敏（日本学術会議連携会員）
「宇宙環境利用科学の進捗と計画」 依田 真一（JAXA）（他 講演12件予定）

平成20年1月18日

物質科学・基礎科学ポスター（ショートオーラル）セッション

「微小重力を利用する科学の学術的意義」 日比谷 孟俊（慶應義塾大学、日本学術会議連携会員）
（他 講演40件予定）

生命科学ポスター（ショートオーラル）セッション

「アストロバイオロジーの課題」 小林 憲正（横浜国立大学）（他 講演30件予定）

4	
幹事会	4 4

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第 17 回国際工学アカデミー連合（CAETS）大会シンポジウム「環境と持続的成長」の後援について	社団法人日本工学アカデミー会長	第三部
自由集会「へき地における看護を考える」の後援について	日本公衆衛生学会第 56 回学術集会会長	第二部